リーディングDXスクール事業 【実践事例】

大仙市立中仙中学校（秋田県）

【取組内容④】クラウドを活用したリアルタイムのクマ目撃情報の共有と注意喚起

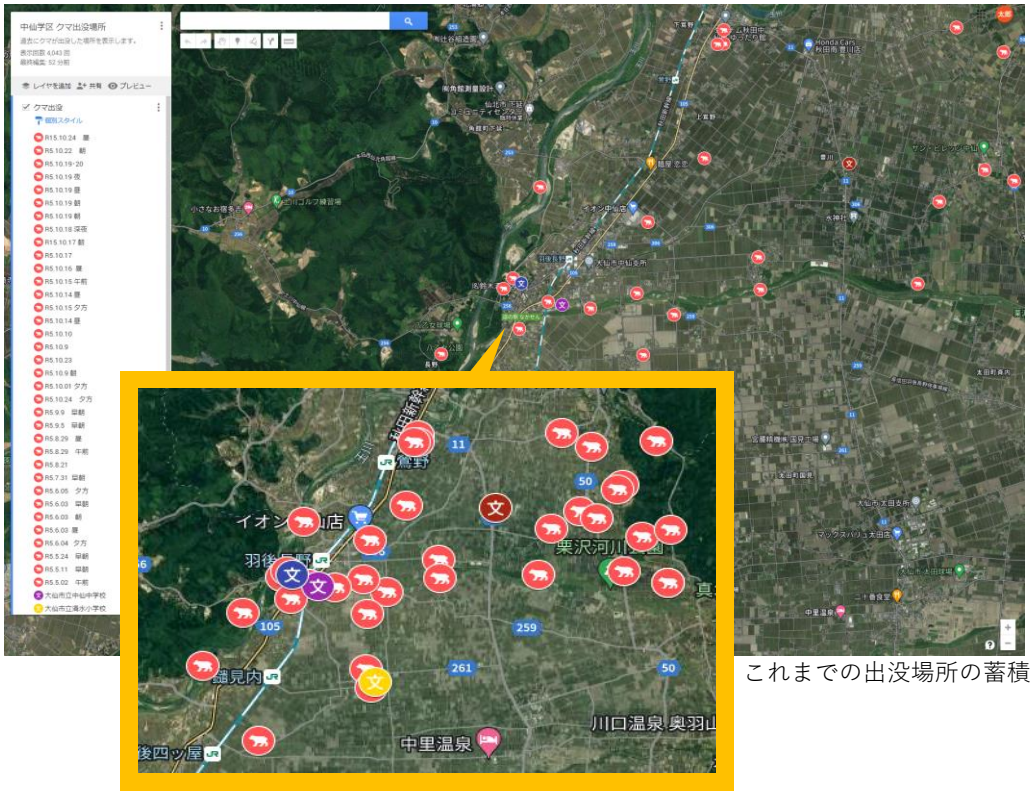
Googleマップの作成研修とその活用

PTA主催の講演会にICT関連企業の方を招き、生徒、保護者、教員でGoogle Mapsを使った研修を行った。当初は、通学路の危険箇所をGoogle Mapsに反映させ、情報を共有したが、この機能を活用し、山間部特有の課題である熊被害の防止対策としてリアルタイムで目撃情報を共有し、注意喚起を行うシステムをとった。学校に寄せられた情報は教頭がすぐにアップロードして、保護者連絡メールにリンク先を添付、生徒用のチームに流すようにして、随時、最新の出没箇所を確認できる。

こうした危険箇所や注意情報、地域住民からの連絡など、視覚的に分かりやすくするため、また情報の蓄積の目的も含め、クラウドを活用して整理することの有用性を感じた。

生徒が学校生活の中で「このような活用もできる」という経験を重ねることでさらに発展した活用法を見い出すことを期待している。

PTA講演会での研修の様子



これまでの出没場所の蓄積